

# 共生

奈良県生協連

2018年 10月

NO.110



組合員理事交流会  
— つくばね発電所見学 —



ピースアクション in なら2018 — ノーベル平和賞メダルと賞状を囲んで —

## もくじ

ピースアクション in なら2018 .....	1・2
組合員理事交流会 .....	3
福島の子ども保養プロジェクト .....	4
奈良県食品安全・安心懇話会 .....	5
おじゃましました～奈良女子大生協編～ .....	6

なら小地域福祉活動サミット .....	7
子ども食堂立上げ講座・フードバンク奈良 .....	8
協同組合デー・行政合同会議 .....	9
3.11を忘れない・奈良県防災総合訓練 .....	10

ピースアクションinなら2018を開催しました

# 『核兵器禁止条約をつくった人々』

基調講演：日本被団協事務局長 <sup>きど すえ いち</sup> 木戸 季市氏

9月29日奈良商工会議所中ホールで「核兵器禁止条約をつくった人々」をテーマに「ピースアクションinなら2018」を開催しました。日本原水爆被害者団体協議会事務局長の木戸季市さんによる基調講演を行い、被爆体験とたたかいの歴史、最近の核兵器をめぐる情勢について学びました。参加者は105名でした。

講演に続いて、奈良県内の被爆証言の継承活動についての報告(入谷直さん)と大学生協学生委員の「Peace Now! 奈良2018」の報告があり、世界から奈良、戦争体験世代から若者まで、いろいろな角度や世代で核兵器や平和の過去・現在・未来について考える集会となりました。



木戸季市氏とピースアクションをすすめる会のみなさん

## ■ 木戸 季市氏 講演「被爆者の願い『核兵器も戦争もない世界を』」(抜粋)

### ①私の被爆体験

「二度とヒバクシャをつくってはいけない」というテーマでお話します。私は3度被爆者になりました。5歳の時長崎の爆心地2キロの地点で母とともに被爆、無残な姿となりました。2度目は1952年米国の占領政策が終わり原爆報道が解禁されて、はじめて自分が被爆者と知った時です。それまでは何も知らされず対策も打たれず被爆者は見捨てられていたのです。被害は隠蔽され調査・報道・証言は妨害され、戦時災害保護法は最も援護が必要な時期であるのに10月で打ち切られていました。被爆者と知った時は、差別や偏見に悩みながらも、「原爆に勝ちたい」との思いを抱きました。そして3度目は、被爆者運動に参加した時で、被爆者として生きるとはどういうことかを考えるようになりました。



講師の木戸季市さん

### ②日本被団協62年・被爆者の死と生・たたかい

1956年日本被団協が結成され、自らの救済を求めるとともに被爆者の体験を通して人類の危機を救おうと宣言しました。62年間被爆の実相を伝え、徹底した調査・研究を行い、「核戦争を二度と起こさない、原爆被害に国の償いを」という基本要請を掲げてきましたが、1980年これに対し「戦争犠牲受忍論」という考え方が国から出されました。憲法に反する暴論です。

### ③核兵器の禁止から廃絶へー『ヒバクシャ国際署名』の成功を!

生きている間にどうしても核兵器のない世界を、という被爆者の願いの実現を求めるヒバクシャ国際署名は2020年まで続けます。昨年成立した核兵器禁止条約は被爆者の市民的良心の役割を明記し、核保有国にも参加の道を開いています。保有国からの圧力はありながらも着実に発効に向けて進んでいます。グアテマラ国連事務総長が「人類を守る軍縮」「人類の命を守る軍縮」「将来のための軍縮」として「軍縮アジェンダ」を発表しこれからの軍縮の課題を示しました。

### ④むすびにかえて

日本の敗戦は連合国と大日本帝国との合意であるポツダム宣言で決まりました。その後多くの人の知恵を集めた日本国憲法が制定され戦後社会が築かれました。今、改憲論のなかで戦前のような社会への逆戻りの危機にあるのではないかと私は思います。基本的人権の尊重と戦争放棄。これらの原則を守るため主権者国民としてしっかり見極める力と問題意識を持っていることが必要です。

### 参加者の感想より

★戦争は二度としてはいけないと思いました。忘れてはいけない原爆のおそろしさを語り伝え続けたいといけなくて深く思いました。

★自分が何をすべきか何ができるかを考える必要があると思いました。

★被爆体験のみならず日本被団協の活動、現在の状況など、様々な話を聞くことができてとても勉強になりました。自由に発信できる世の中であることに感謝し、そのことが継続できるように考えることからスタートしたい。

★入谷さんの今後の活動に期待しています。若い大学生の活動、すごくよかったです。

## ■入谷方直さん 奈良県内の原爆被害者の歩み～継承活動報告～

奈良県原爆被害者の会「わかくさの会」は1995年全国で最後につくられ2006年全国で最初に解散しました。入谷さんは奈良県の被爆者の記録を残し声を継承するために、会の活動の記録や被爆体験手記を探しています。3月にピースアクションをすすめる会が主催した「ピースかふえ」での報告会が共感を呼び、新たな原爆被害者の手記の発行にむけ協力者も現れ動き出すことができたこと、また、ならコープの協力を得て元コープ六条店に資料保存展示室のスペースが設けられること、などが報告されました。「特定非営利活動法人ノーモアヒバクシャ記憶遺産を継承する会」と連携しながら資料のデジタルデータ化を進めるなど奈良支部としての役割も担いたいと話されました。広く被爆体験を募集したり被爆2世3世の方の声ともつながりたいので、関心のある方、手伝える人は協力してほしいと呼びかけられました。



入谷 方直 さん

## ■大学生協学生委員「PeaceNow! 奈良2018の報告」



左から 山根美沙希さんと太田麻友さん

実際に自分の足で歩く、目で見る、耳で聞く、人と話すことを通して平和について考える企画「PeaceNow! なら」を6月に大学生協学生委員の実行委員会が開催しました。参加者が平和について「知り」、身近な問題として「考え」、人に「伝える」ことが自らできるようにというのが開催主旨です。

「①ご近所にある戦蹟をめぐるフィールドワーク②戦争体験者の証言を聴く③知ったこと感じたことをワールドカフェで共有④物事の本質を考えるワークショップ」の構成で進めました。報告者の山根美沙希さんはこの企画を終え、平和について取り組む仲間がいることを実感し、参加者の考えるきっかけづくりができ、継続できると確信したとのこと。また太田麻友さんは、戦争体験を聴ける機会も減る中で、このPeaceNowが新たな平和活動のモデルになり持続可能な活動につながればいいと思うと述べました。

## ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)が授賞したノーベル平和賞(メダルと賞状の公式レプリカ)を展示

核兵器禁止条約成立への貢献が評価され2017年にICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)が授賞したノーベル平和賞のメダルと賞状の公式レプリカを会場別室に展示しました。公式レプリカは展示目的に、世界で10のICAN国際運営団体が保有していますが、今回の展示はその運営団体のひとつである日本のピースポートが保有しているものです。滅多に見る機会のないもので広島、長崎でも原爆の日に展示され話題を呼びました。会場を訪れた参加者は熱心に見入り、写真に納めたりしていました。



# 2018年度 生協組合員理事交流会

## (つくばね発電所・うだ夢創の里見学会)

9月12日、8回目となる生協組合員理事交流会を開催し3生協と奈良県生協連の41名が参加しました。昨年、発電を開始した東吉野のつくばね発電所(小水力)やうだ夢創の里市民共同発電所(太陽光)での地域づくりの実践例を、現地訪問してお話を聞き、生協として、コミュニティづくりについて考える機会となりました。また、2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標：SDGs」の17目標をカードにして活用を試みました。



ならコープが支援した「つくばね発電所」の説明をする  
東吉野水力発電(株)森田康照社長



事務所で説明する東吉野村小水力利用  
推進協議会の上高垣内順一会長



地産地消の食材ランチ

### ～スケジュール～

- 9:00 大和八木駅南口出発  
会員生協紹介(3生協)、SDGsの説明
- 10:00 つくばね発電所見学・説明
- 11:30 出発
- 12:40 うだ夢創の里 昼食
- 13:30 うだ夢創の里 仲尾京子さんのお話  
(地域の居場所づくり)
- 14:00 研修・交流(6グループごと)  
①見学しての感想・印象に残ったこと  
②地域と共に(地域の中で)自分たちでできること、やってきたこと、やりたいこと  
\*SDGs世界を変えるための17の目標カードを活用  
まとめ 奈良県生協連 辻専務
- 15:00 うだ夢創の里 出発
- 16:00 大和八木駅にて解散



うだ夢創の里仲尾京子理事長のお話



6テーブルの発表



SDGsカードを事例においてみる作業

つくばね発電所は、地元の有志が過疎地である東吉野村の活性化を願い、大正時代の小水力発電所を復活させました。ならコープや子会社が人的・財政的な支援をしました。発電した電力はならコープでんきになって組合員に供給されています。また、うだ夢創の里の仲尾京子さんは、ならコープの環境講演会に刺激され、牛

乳パックなどリサイクル活動を仲間で始めたのが発端。活動拠点を求めているうちに現在の元保育園を活用するに至ったそうです。地域と共にやっていかねばならない事がいっぱいあると感じたとの感想がありました。他生協の理事さんと共に交流したことも良かったようです。

大仏の大きさに驚き 鹿がいっぱい来てびっくり!  
家族でのびのびと奈良・関西を満喫!

# 「福島の子ども保養プロジェクトinなら」

7月21日から24日まで、福島の子どもたちとそのご家族(30名11家族)を奈良県にお招きし、猛暑の中熱中症にも十分に注意しつつ、家族でのびのびと奈良・関西を楽しんでいただきました。(主催:市民生活協同組合ならコープ、共催:福島の子ども保養プロジェクト、東大寺、近畿労働金庫、奈良ロイヤルホテル、NPO法人Cキッズネットワーク、奈良県生活協同組合連合会)。21日は、畿央大学の学生によるゲームをみんなで楽しみながら交流し、ウェルカムパーティでは参加者同士で、またボランティアはじめスタッフと交流し仲良くなりました。22日は、東大寺の大仏様の大きさにびっくり! 奈良公園では鹿せんべいを片手に集まってくる鹿に驚きながら鹿と触れ合いました。午後からは柿の葉ずし作りを体験しました。また、23日は、ご家族ごとに、思い思いに関西を楽しんでいただきました。宇治鳳凰堂、奈良公園、春日大社、法隆寺そして海遊館などなど…。24日は、「奈良のおもいで発表会」として、3日間の想いで語り合い交流しました。



参加者からは、「家族は県外自主避難から福島に戻ったばかりで少し緊張して過ごしていたので、この度の保養プロジェクトのおかげで本当にのびのびと過ごすことができました」「外遊びが増えましたがそこには除染された土が積まれています。ダメダメばかりの子育てもよくないと思い心の中で葛藤が続いています」「学校までの登校では毎日のことなので気にしないようにしていますが場所によっては線量が高かったり除染がされていないところもあり気になるところもあります」「4日間安心して過ごせた。皆さんの笑顔思い出してまた頑張っていこうと思う」「外遊びを注意することなく、心が洗われた」「いまだ福島のことを忘れずにいてくださって本当にうれしくありがたく思いました」…などの感想が話され、笑顔いっぱいの3日間になったようです。



東大寺で無病息災を願って柱の穴くぐり



奈良公園で鹿とふれあって



柿の葉ずし作り体験



こどもが描いた奈良の想いで



夏休み福島の子ども保養プロジェクトinなら

奈良の想いで発表会

## なら健康・省エネ住宅を推進する県民会議 設立記念シンポジウム

9月1日 奈良商工会議所大ホール(奈良市)にて、なら健康・省エネ住宅を推進する県民会議の設立式と記念シンポジウム(主催:一般社団法人健康・省エネ住宅を推進する国民会議/なら健康・省エネ住宅を推進する県民会議設立準備会)が開催され、約130名の方が参加されました。

この県民会議は、県、県医師会、木材、住宅、消費者団体など関係する団体の代表者や、国会議員、県議会議員、市町村長ら42名が発起人となり設立されました。奈良県生協連も森宏之会長が発起人の一人となっています。

設立式では、趣意書や会則、役員、事業計画が承認されました。会長に、奈良女子大学研究院生活環境学系住環境学領域の吉田伸治准教授が、副会長に谷奥忠嗣奈良県木材協同組合連合会会長と矢島一日本住宅リフォーム産業協会近畿支部長が、監事に木造住宅品質確保普及促進協議会黒川恵史理事長が就任されました。

その後のシンポジウムでは、建築の視点から、吉田会長が「奈良の気候に配慮した環境・健康・快適な住まいづくりの現状と課題」、健康の視点から、中山邦夫氏(医学博士)が「住まい・住まい方と健康」、木材の視点から寺西康浩氏(県奈良の木ブランド課係長)が「奈良の木でつくる健康で快適な暮らし」についてそれぞれ講演されました。吉田会長は、「冬季に急増する心筋梗塞や脳卒中による死亡事故は意外にも知られていない。住宅に潜む危険は身近に存在し、奈良県では寒さは仙台市並みの地域もあり、一日の寒暖差は冬の長野県よりも大きい。断熱機能の高い住宅の普及が急がれる。『奈良県民が健康日本一』となることは県民会議のミッションでもある」と述べられました。今後の進展が期待されます。



会場はいっぱいになりました

## 第30回奈良県食品安全・安心懇話会 (平成30年度第1回)

9月11日(火) 奈良ロイヤルホテルにて平成30年度第1回奈良県食品安全・安心懇話会が開催されました。懇話会委員(流通業代表)として、奈良県生協連の会員生協であるならコープ山中教義専務理事が、また、ならコープの理事の有山富士美さんと板澤英子さんが公募委員として委嘱されました。

議題としては、平成29年度奈良県食品衛生監視指導結果、食の安全・安心行動計画(平成29・30年度)、食品衛生法の改正について報告されました。また、懇話会委員から、ならハサップの申請状況、ジビエに関すること、食品ロス等ついて、遺伝子組み換え食品や子ども食堂について質問が出され、情報提供および回答が関係課及び懇話会委員より説明があり、意見交換が行われました。

はじめて子ども食堂や食品ロス、フードバンクのことが話題になりました。今後も幅広い分野での情報共有が求められています。



写真提供: 奈良県消費・生活安全課

# おじゃましました //

～奈良女子大生協の巻～

## 奈良女生協50周年記念シンポジウム 『50年の思いをつなぐ』

奈良女子大生協は2018年4月22日に、設立50周年を迎えました。9月8日に生協のこれまでの歴史を振り返り、未来に向かって前進していくため、奈良女子大学生協設立50周年記念シンポジウム・パーティが開催され、奈良県生協連もおじゃまさせていただきました。

奈良女子大生協の立ち上げから今に至るまで苦勞された方々や、学生委員として活動された卒業生、教員、在籍している学生さんたち、生産者や支援したならコープなど関係者100名ほどが出席し、和やかで、あらためて生協を考えるにふさわしいシンポジウムでした。



奈良女子大生協 西村雄一郎理事長あいさつ



パネルディスカッション



生協食堂でのパーティ  
あいさつのリレーでは感極まる涙もありました

### プログラム

#### 第一部 講演会「生協の設立記～現在まで」

- ・ 瀧千秋さん(文学部人間科学科4回生)  
「生協を私たちの手で～  
生協設立時の資料からわかったこと」
- ・ 横山治生さん(大学生協関西北陸ブロック京滋奈良  
エリア事務局/元奈良女子大生協専務理事)  
「1970～80年代頃の生協の様子、奈良女子大生協の  
特徴など」
- ・ 多良明子さん(生活環境学部住環境学科2002年卒業生)  
「ベジサンドができるまで～生協改革期2000年の活動」
- ・ 藤澤佳子さん(文学部人文社会科学科3回生)  
「現在のWINDYの活動」

### パネルディスカッション

#### 第二部 パネルディスカッション 「未来にむかって受け継ぐべきもの、 大切にしていってほしいもの」

コーディネーター 三木健寿先生  
(生活環境学部 心身健康学科教授、現生協監事)

パネリスト

- ・ 瀧 千秋さん ・ 横山 治生さん
- ・ 多良 明子さん ・ 藤澤 佳子さん
- ・ 大塚 浩先生(生活環境学部生活文化学科准教授、  
現生協副理事長)

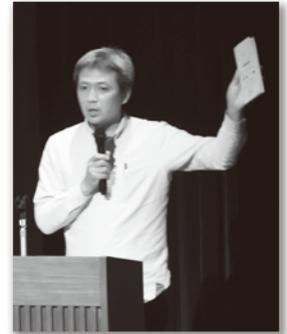
設立時の資料から読み解いた事を報告された瀧さんが、「生協はみんなの希望の反映される組織です。諸問題は私たちの問題でもあると書かれていた」と紹介されました。「安くても安心という信頼。栄養満点の食事の提供」そして、「学生や教職員の交流の場であり憩いの場であること」を目指したことは今も同じであり、願いの実現のために努力された方々のおかげであると強く思いました。

# 人がつながり、まちを元気に!

## 第7回 なら小地域 福祉活動サミット2018

8月25日奈良県社会福祉総合センターにて、なら小地域福祉活動サミットが自治会やボランティア、民生児童委員など約400人が参加され開催されました。基調講演では大阪箕面市のNPO法人「くらしづくりネットワーク北芝」事務局長の池谷啓介さんが地域での活動を紹介されました。北芝では、子ども・若者・高齢者をはじめ暮らしの主役である住民のつばやきをひろって、人と人、人と地域をつなぐ活動が繰り返されています。地域内外のアイデアやチカラが混ざり合う北芝の実践から、自分らしく暮らせる共生の地域づくりについて考えました。

午後からは①「住民の気づきは、暮らしやすい地域づくりの源」②「子どもを育む地域のチカラに目を向けよう」③「地域に広がる豊かな居場所徹底解剖!」④「コミュニティスペースまんま」の4つの分科会に分かれその取り組みや工夫を学び合いました。



基調講演の池谷啓介氏



## 子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in奈良が開催されました

7月28日に多くの方々が子どもの貧困対策への理解を深め、より充実した民間や自治体の支援体制を構築するきっかけと場づくりを目的に開催され、第1部66人、第2部44人、合計72人が参加しました。(主催：公益財団法人あすのば、共催：奈良県)奈良県生協連も、内閣府、奈良県教育委員会、奈良市など8市町、奈良県社会福祉協議会とともに後援し参加しました。小河光治あすのば理事長、橋本安弘奈良県こども女性局長挨拶のあと、県こども家庭課梅野正和氏より県内の子どもの貧困対策の取り組みについて、また奈良こども食堂ネットワークの活動について県社会福祉協議会の岡本晴子氏より報告されました。法隆寺国際高校放送局卒業生からは子ども食堂を題材にした発表がありました。第1部は「それぞれの立場から考える奈良の子どもたちの困りごと」をテーマにおてらおやつクラブ岡本輝起氏、NPO法人宙塾黒飛啓志氏、NPO児童支援

グループわたげ松舟晃子氏によるパネルディスカッションが行われました。第2部は、あすのば子どもサポーター田中涼太氏の司会で「子どもと接する中で感じる悩みや活動を続けていくうえでの困りごとについてグループにわかれて話し合われました。また、たんぼぼ子ども食堂などによるリレートークが行われ、それぞれの取り組みや子どもたちへの思いが話されました。参加者からは、「地域で子どもを見守ろうとする方々が、つながって意見交換されたことは有意義だったと思う」などの感想が寄せられました。



# はじめよう! 応援しよう!

## こども食堂立上げ講座が開催されました



子ども食堂の裾野を広げ、活動を予定する方に活動の要点や方法をお伝えすること、また、活動を始めたい方だけでなく、子どもを取り巻く多様な立場の方にも参加いただき、子ども食堂との連携・協力・応援のあり方について検討するための情報提供の場として、「子ども食堂立上げ講座」が9月13日に開催されました。(主催:奈良子ども食堂ネットワーク・事務局:奈良県社会福祉協議会、奈良県生活協同組合連合会)

子ども食堂の立ち上げを検討している方や、協力したい方、市町村社協、世話役団体等52名が参加しました。世話役団体を代表して辻奈良県生協連専務が挨拶しました。奈良県社会福祉協議会岡本晴子氏から子ども食堂の広がりとその背景、取り組みの中で見えてきたことや居場所づくりのすすめなどについて報告がありました。実践報告として①「こども・地域食堂 みんなのおうち」(王寺町) ②「たわわ食



報告する「みんなのおうち」の泉さん

堂(こども・居場所)食堂」(生駒市)からの報告の後グループに分かれて子ども食堂の実践者を中心に情報交換が行われました。最後に、フードバンク奈良の活動、ならコープの取り組み、奈良県こども家庭課から県としての助成、県社協から保険や助成等の情報等についてそれぞれ報告がありました。

## フードバンク奈良、 第2のスタート開始

2018年9月8日コープふれあいセンター六条(元ならコープのコープ六条店)が組合員活動の地域の拠点として、再スタートしました。この元店舗のバックヤードの一角をフードバンク奈良の事務所として貸していただけることになり、9月17日からならコープの共同購入のキャンセル品が1週間に1回、この場



平群町社協主催の子どもたちによるフードドライブ(8月12日ならコープディアーズコープたつたがわにて実施)

所に配送され、フードバンク奈良に寄贈されることになりました。より広い場所で、食品の仕分け作業が出来るようになります。今までは、行政や市町社会福祉協議会や団体のフードドライブ活動に頼ってききましたが、定期的にある程度の食品が入ることになり、扱う量が増えてきます。4月から今回までで約765kg、設立した1月からは約2.2トンを回収し、子ども食堂や地区社協など必要とされているのべ112団体にお届けしています。

フードバンク奈良には設立時から奈良県生協連は役員の1人として、またならコープとともに団体会員として関わっています。



コープふれあいセンター六条内覧会でのフードドライブ(9月8日)

## 第26回 奈良県協同組合デーのつどい

### 国連SDGs(持続可能な開発目標)をテーマに開催

7月20日、ホテル・リガール春日野において、「奈良県協同組合連絡協議会」の委員会が開催されました。同協議会は、奈良県農業協同組合中央会、奈良県農業協同組合、全国共済農業協同組合連合会奈良県本部、奈良県森林組合連合会、奈良県生活協同組合連合会の5者が連携し、県内協同組合間協同の促進と情報交換を図るための連絡組織で、2017年度のまとめと18年度の事業計画について確認しました。

そのあと開催された「第26回奈良県協同組合デーのつどい」では、生協役職員を含む協同組合関係者約100人が集い、協同組合運動の発展を祝い意義を確かめました。協議会委員長で奈良県農業協同組合中央会会長の中出篤伸氏の開会挨拶のあと、来賓を代表して奈良県農林部林業振興課阪口博章課長からご祝辞をいただき「持続可能なよりよい暮らしを目指した協同組合による取組みに期待します」との言葉を頂戴しました。

続いて一般社団法人日本協同組合連携機構(JCA)の青竹豊常務理事による講演「協同組合の可能性をひろげ地域を元気に」が行われました。JCAは、今年4月に発足した「持続可能な地域のよりよい暮らし・仕事づくりに向けた役割発揮を広げる」ための全国の協同組合組織が加盟する連携組織で、連携の促進や政策提言・広報、調査研究などの事業を行います。青竹さん



JCA青竹豊常務理事の講演

は「たすけあいの組織」としての協同組合の歴史や理念に触れながら、社会の変化とともに果たしてきた役割について述べ、また全国各地での協同組合間の連携の取り組みも紹介されました。国連が提唱している持続可能な開発目標(SDGs)は誰ひとり取り残さない社会を目指していますが、地域を基盤に人と人の結合で助け合う協同組合は、SDGsの理念を体現しているとされ、推進の担い手として期待されています。青竹さんは、期待に応え役割を発揮するために各地域で協同組合間協同をさらに広げていくよう呼びかけられました。

講演の後の懇親会では、県内農産物を使った料理を楽しみながら事業分野や組織を超えて親睦を深めました。

## 第30回 近畿地区生協・行政合同会議

8月29日滋賀で開催



「安心してらせる地域社会づくりをめざして」をテーマに、第30回近畿地区生協・行政合同会議が8月29日、滋賀の琵琶湖ホテルで開催されました。毎年行政と生協関係者が一堂に会し交流するもので、本年度は奈良県から消費・生活安全課夏秋智行係長と細川こずえ主任主査および奈良県生協連が参加しました。厚生

労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室の佐藤敏彦氏は挨拶の中で、生協の強みを生かした、災害支援や子どもの問題解決の取り組みなどに期待のこぼを寄せられました。

関西学院大学教授の藤井博志教授による特別講演「地域丸ごとささえあうみんなの居場所とは～『地域共同ケア』のススメ」が行われ、住民みんなで作る地域の共同ケアについて学びました。その後奈良県生協連から「生協・社会福祉協議会との連携～子ども食堂ネットワークを中心に～」について報告、続いて、「京都府エシカル消費推進ネットワークの取り組みについて」(京都府消費生活安全センター)「ひろげよう!『買う』から始めるSDGs」(一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク)「特定適格消費者団体KC'sの活動報告」(消費者支援機構関西)の報告があり、質疑と意見交換が行われました。

# 3.11を忘れない

みやぎ生協から  
被災地・宮城のいまをお伝えします

## 「食べていただくことが石巻の水産復興につながる」

2018年9月5日

石巻の水産業者たちが、震災後、石巻市水産復興会議という組織を立ち上げ、一丸となって、真っ先に行なったのは冷蔵庫にあった製品の廃棄処理でした。各社から人が出て“今日はこの会社の冷蔵庫、明日はこの会社の冷蔵庫”と振り分けし、3カ月かけて処理しました。

「海があり、船があれば漁はできる。仮設の魚市場が建てば水揚げができる。しかし加工場がなければ出荷はできない。そこで加工場の冷蔵庫に残っていた製品を全部捨て、受け入れ環境を整えることから始めたんです」  
渡波水産加工業協同組合の木村安之専務理事は、当時をそう振り返ります。

また渡波水産加工業協同組合は、国の補助を受けてすぐに冷凍冷蔵施設と製氷施設を復旧させ、組合員（水産加工業者）が氷の手当てや冷凍冷蔵庫の保管を心配することなく事業再開に打ち込めるようにしました。

一方で壁にも突き当たりました。「消費者の方々に宮城の水産物をたくさん食べてもらわなければならないのに、原発事故による風評被害が起きて不安だった」と話します。さらに組合員の間では施設整備に伴う二重ローン問題も浮上し、不安は増大しました。

しかし震災から3年後に組合の青年部が活動を再開、交流する中で様々な意見が出てくるようになりました。木村さんはそこに希望を見ます。「水産加工は練り製品や塩蔵品など業種が多様で、他の工場の実情を知らない。だが青年部の活動で工場を行き来すれば作業内容なども自然とオープンになる。それが互いに刺激になる。議論が生まれ、行動に移していくこともできるように

なった」

同組合は食育などのPR活動に取り組む一方で、消費者の声を聴きに行くことを今後の課題にしています。

「消費者の方々が何を求めているかを知り、さらに交流を通して我々の製品の良さを伝えていきたい」と木村さん。「消費者の方々に石巻の水産加工品をたくさん食べていただくことが復興につながる。PR活動と交流に取り組み、組合員の経営に貢献していきます」

同組合の組合員は現在36社。その思いを反映した運営と新たな試みとのバランスを取りながら、復興の道をたどっています。



◀ 木村安之専務理事（右）と菅原正浩参事。「時代の変化に対応していくには消費者の方々との交流が大切で、それが個々の組合員の経営維持につながる」と話します

凍結室をはじめ立体自動冷蔵 ▶  
施設、自動製氷施設など最新の設備が整っています



情報提供／みやぎ生協

## 平成30年度奈良県防災総合訓練に参加しました

8月5日県民の防災意識をたかめるとともに関係機関の連携強化を図る県防災総合訓練が実施され、消防・県警・自衛隊・防災関係機関など66団体約1300人が参加しました（会場：田原本町健民運動場、中央体育館及び唐古・鍵遺跡史跡公園、主催：奈良県・田原本町）。ならコープと奈良県生協連は、防災備品等の展示と救援物資緊急輸送訓練に参加しました。また参加者に飲料水を提供しました。



## 7月

- 5日 奈良県生協連第2回理事会
- 9日 近畿地区生協府県連協議会
- 10日 国際協同組合デー記念中央集会
- 11日 JCA都道府県協同組合連携組織全国交流会
- 12日 奈良県農業再生協議会総会
- 13日 奈良防災プラットフォーム連絡会
- 14日 大分県生協連役員研修会
- 18-19日 日本生協連連活動推進会議(全国版)
- 19日 日本生協連「地方行政における消費者・食の安全課題学習会」
- 20日 第26回奈良県協同組合デーの集い

- 21日~24日 福島の子ども保養プロジェクト in なら
- 26日 日本生協連関西地連運営委員会
- 28日 子どもの貧困対策全国キャラバン in 奈良
- 31日 子どもの未来アクションアンバサダー講習会(日本生協連)

## 8月

- 1日 ピースアクションをすすめる会
- 5日 奈良県防災総合訓練
- 7日 こども食堂世話役団体会議
- 22日 日本国憲法を学ぼう! 学習会(日本生協連)
- 28日 第1回奈良県環境審議会

- 29日 第30回近畿地区生協・行政合同会議

- 31日 生協組合員理事交流会実行委員会

## 9月

- 1日 なら健康・省エネ住宅を推進する県民会議の設立シンポジウム
- 10日 ピースアクションをすすめる会
- 11日 防災フォーラム2018企画会議
- 12日 生協組合員理事交流会
- 13日 こども食堂立ち上げ講座
- 20日 奈良県生協連第3回理事会
- 20日 会員生協理事長交流会
- 29日 ピースアクション in なら2018

お知らせ

## 食の安全懇談会

### 食品衛生法改正でどう変わるのか？

- 講師：森田 満樹氏 一般社団法人FOOCOM：フーコム事務局長
- 報告：奈良県からの食の安全に関する情報提供 奈良県消費・生活安全課
- 日時：2018年10月22日（月）13：30～16：00
- 場所：奈良商工会議所 4階中ホール
- 主催：奈良県生活協同組合連合会



## 編集後記

迫り来る巨大台風にはじめて真面目に避難の荷物をまとめてみました。まとめてみると不備だらけ、避難勧告が出ても危険な心配がない、でもその油断が・・・不安と過信、迷いと居直りが混在するうち、台風一過となりました。

(由)

今、「シルバー川柳」が話題になっている。介護には大変なこともあるが、ユーモアあふれる内容に家族と「あるある」と思わず笑みを浮かべる。「サラリーマン川柳」につづいて「これからサラリーマン川柳」も発表された。いずれも日常の悲哀・悩みを表しているが、そのウィットに富んだ表現が癒しになっているのかな。

(和)

事務所の胡蝶蘭が瀕死状態です。2014年の事務所移転の時にいただいた花です。毎年きれいな花を咲かせていましたが、とうとう枯れそうになってきたので、思い切って根詰まりを解消すべく植え替えました。がんばれ！コチヨウラン。

(順)

あわただしく暑い夏がすぎ、やっと気持ちの良い秋が来ると思ったら長雨つづき。仲秋の名月も雲の中。天高く馬肥ゆる秋はいつになるやら・・・松茸とは言わないけれど栗、さつまいも、梨、秋の味覚で食欲だけでもみたそうかな。

(佳)